

# 小田原

広

報

まちづくり情報誌

2000 12月号  
12/1

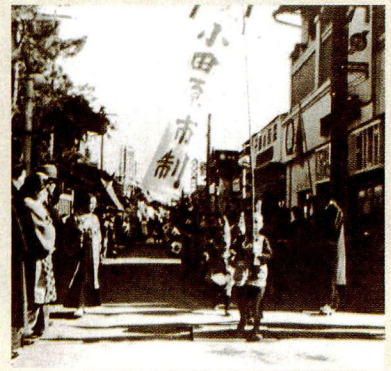
平成12年12月1日発行  
No.784

祝  
60周年  
小田原市

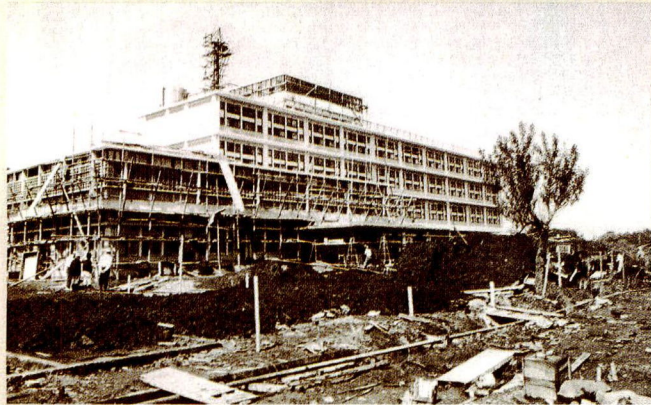
年表で振り返るおだわら

# おだわら写真館

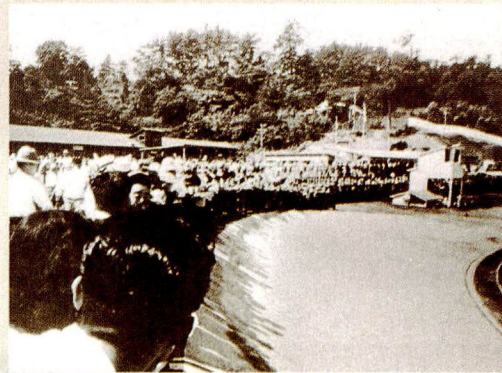
小田原市が誕生してからちょうど60年。小田原は、豊かな自然と歴史・文化などの恵まれた環境を背景に、神奈川県西の玄関として発展してきました。この60年の小田原の歩みを振り返ってみましょう。



市制施行を祝う  
幼稚園児の鼓笛隊(昭和16年)



市立病院第1期工事(昭和33年)



にぎわう  
小田原競輪場(昭和24年)

## おだわら 60年のあゆみ

1940年(昭和15年)

小田原町・足柄町・大窪村・早川村・酒匂村の一部が合併して小田原市となる

1941年(昭和16年)

第一回小田原市議会議員選挙が行われる

1947年(昭和22年)

第一回小田原市長選挙が行われる

1948年(昭和23年)

下府中村が小田原市と合併する

1949年(昭和24年)

小田原競輪が始まる

1950年(昭和25年)

こども文化博覧会が開かれる。こども遊園地・動物園が開園(市制10周年記念)  
桜井村が小田原市と合併

1954年(昭和29年)

豊川村・酒匂町・国府津町・上府中村・下曾我村・片浦村が小田原市と合併する

1955年(昭和30年)

郷土文化館、城山庭球場、城山陸上競技場が完成  
国民体育大会で小田原市が軟式庭球とソフトボール競技の会場に

1956年(昭和31年)

曾我村の一部が小田原市と合併

1958年(昭和33年)

市立病院が開業

1960年(昭和35年)

小田原城天守閣の再建工事が完成(市制20周年記念)

1962年(昭和37年)

市民会館が開館

1968年(昭和43年)

市水産市場が操業開始

1970年(昭和45年)

御幸の浜プールがオープン

1971年(昭和46年)

小田原城常盤木門を復興(市制30周年記念)  
橋町が小田原市と合併

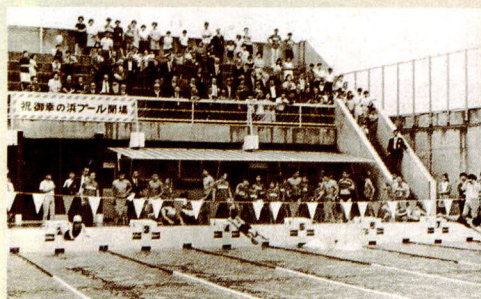
1972年(昭和47年)

西湘ハイパスが全面開通

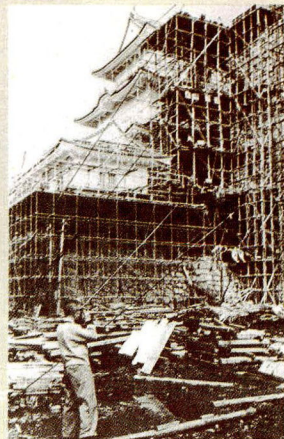
1976年(昭和51年)

公設青果地方卸売市場が開場

御幸の浜プール  
開場(昭和45年)



小田原城天守閣  
再建の様子(昭和35年完成)



こども文化博覧会の  
宣伝行列(昭和25年)





西湘バイパスの  
開通(昭和47年)

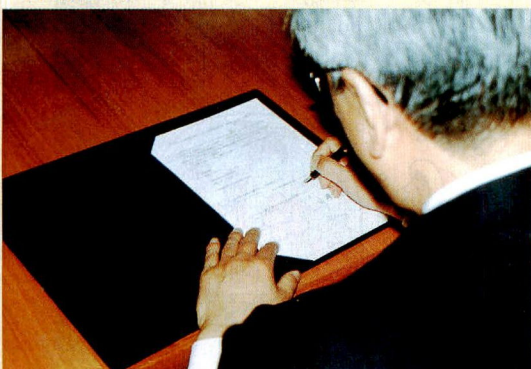
小田原駅東口  
地下街工事



お城祭りで  
パレードに参加した  
牧伸二さん(昭和53年)

- 「つめ」が制定される
- 1979年(昭和54年) 小田原駅東口広場と地下街が完成
- 1980年(昭和55年) 中央公民館が完成(市制40周年記念)
- 1981年(昭和56年) 栃本県今市市と姉妹都市提携を結ぶ
- 1982年(昭和57年) アメリカ合衆国カリフォルニア州チュラビスタ市と海外姉妹都市提携を結ぶ
- いこいの森がオープン
- 1988年(昭和63年) 尊徳記念館、保健センターがオープン
- 1990年(平成2年) 石垣山一夜城跡が歴史公園としてオープン
- 小田原球場が完成
- 1991年(平成3年) 関東学院大学小田原キャンパスが開校
- 1992年(平成4年) 梅の里センター・生きがいふれあいセンター「いそしぎ」がオープン
- 水道局新庁舎が完成
- 1994年(平成6年) 新消防本部・署庁舎が完成
- かもめ図書館、小田原文学館がオープン
- 1995年(平成7年) 県立生命の星・地球博物館がオープン
- 小田原フラワーガーデンがオープン
- 小田原市の人口が20万人を突破
- 市の鳥をコアジサシに制定
- 1996年(平成8年) 川東タウンセンター・マロニエがオープン
- 1997年(平成9年) 総合文化体育館小田原アリーナ、テニスガーデンがオープン
- 1998年(平成10年) 小田原城銅門が完成、歴史見聞館も同時オープン
- 白秋童謡館、おだわら国際交流ラウンジがオープン
- 国民体育大会で小田原市がバスケットボール・ソフトテニス・ソフトボール競技の会場に
- 1999年(平成11年) 曽我みのり館がオープン
- 2000年(平成12年) 小田原こどもの森公園わんぱくらんどがオープン
- 小田原駅東西自由連絡通路の建設着工
- 全国で初の特例市に移行

地方分権への第一歩となる  
特例市事務引き継ぎ  
(平成12年)



白熱した  
国民体育大会の様子  
(平成10年)



チュラビスタ市との  
海外姉妹都市提携式  
(昭和56年)



# 検証！「二十世紀の豫言」

「激動の20世紀」も、いよいよ残すところあと1か月となりましたが、21世紀に思いをはせる前に、ちよつと20世紀を振り返ってみましょう。

明治34年(1901年)1月2日・3日付の報知新聞に、「二十世紀の豫言」と題した記事が掲載されました。20世紀の始めに100年後の世界を想像したもので、全部で23項目挙げられています。全文を紹介しますので、今の状況と比べながら、真偽のほどを確かめてみてください。続きは、広報おだわらいふ12月15日号に掲載します。

(原文は、旧かなづかいと旧字体で書かれています。また、読みやすくするために句読点・ルビ・注釈を適宜入れるなど、手を加えた部分もありますが、それ以外は掲載時の原文どおりです。)

十九世紀は既に去り、人も世も共に二十世紀の新舞台に現われることとなりぬ。十九世紀に於ける世界の進歩は頗る驚くべきものあり。形而下に於いては『蒸氣力時代』『電氣力時代』の称あり、また形而上に於いては『人道時代』『婦人時代』の名あることなるが更に歩を進めて二十世紀の社会は如何なる現象をか呈出するべき。既に此三四十一年間には、仏国の小説家ジュール・ベルヌの輩が二十世紀の予言めきたる小説をもつて読者の喝采を博したることなるが、若し十九世紀間進歩の勢力にして年と共に愈増加せんか、今日なお不思議の惑問中に在るもの、漸々思議の領内に入り来ることなるべし。今や其大時期の冒頭に立ちて遙かに未来を予想するも亦快ならずとせず、世界列強形成の変動は先ずさし措きて、暫く物質上の進歩に就きて想像するに：

## 無線電信及び電話

マルコニー氏発明の無線電信は一層進歩して、只に電信のみならず、無線電話は世界諸国に連絡して、東京に在るものが倫敦・紐育にある友人と自由に対話することを得べし。



## 遠距離の写真

数十年の後、欧州の天に戦雲暗澹たることあらん時、東京の新聞記者は編集局にしながら電氣力によりて其状況を早取写真となすことを得べく、而して其写真は天然色を現象すべし。

## 野獣の滅亡

アフリカ加の原野に到るも、獅子・虎・鱉

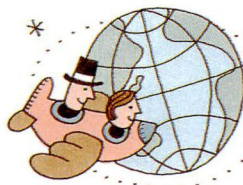
魚等の野獣を見ること能わず。彼等は僅に大都會の博物館に余命を継ぐべし。

## サハラ砂漠

サハラの大砂漠は漸次沃野に化し、東半球の文明は漸々支那・日本及びアフリカに於いて発達すべし。

## 七日間世界一周

十九世紀の末年に於いて尠くとも八十日間を要したりし世界一周は、二十世紀末には七日を要すれば足ることなるべく、また世界文明国の人民は、男女を問わず必ず一回以上世界漫遊をなすに至らむ。



## 空中軍艦・空中砲台

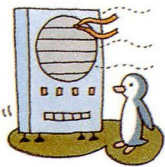
チェッペリン式の空中船は大いに発達して、空中に軍艦漂い空中に修羅場を現出すべく、従つて空中に砲台浮かぶの奇観を呈するに至らん。

## 蚊及び蚤(のみ)の滅亡

衛生事業進歩する結果、蚊及び蚤の類は漸次滅亡すべし。

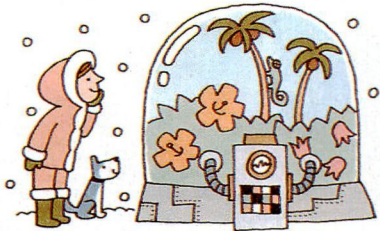
## 暑寒知らず

新器械發明せられ、暑寒を調和する為に適宜の空気を送り出すことを得べし。アフリカ加の進歩も此為なるべし。



## 植物と電氣

電氣力を以て野菜を成長することを得べく、而して豌豆(注)そらまめ)は橙大となり、菊・牡丹・薔薇は緑・黒等の花を開くもあるべく、北寒帯のグリーンランドに熱帯の植物生長するに至らん。



## 人声十里に達す

伝声器の改良ありて、十里の遠きを隔てたる男女、互いに婉々たる情話をなすことを得べし。  
注：1里は約3.9km。

## 写真電話

電話口には、対話者の肖像現出するの装置あるべし。

## 買物便法

写真電話によりて遠距離にある品物を鑑定し、且つ売買の契約を整え、其品物は地中鉄管の装置によりて、瞬時に落手することを得ん。



## 電氣の世界

薪炭・石炭共に竭き、電氣之に代わりて燃料となるべし。

# 作品に見る 小田原

根府川  
東海道の小駅  
赤いカンナの花の咲いている駅

たつぷり榮養のある  
大きな花の向うに  
いつもまつさおな海がひろがっていた

中尉との恋の話をきかされながら  
友と二人こゝを通ったことがあった

あふれるような青春を  
リュックにつめこみ  
動員令をポケットに  
ゆられていったこともある

燃えさかる東京をあとに  
ネーブルの花の白かったふるさとへ  
たどりつくときも  
あなたは存った

丈高いカンナの花よ  
おだやかな相模の海よ

沖に光る波のひとつひら  
あ、そんななかゞやきに似た

十代の歲月  
風船のように消えた  
無知で純粹で徒労だった歲月  
うしなわれたたった一つの海賊箱

はっそりと  
蒼く

国をだきしめて  
眉をあげていた  
菜ッパ服時代の小さいあたしを  
根府川の海よ

忘れは七なやだらう？

女の年輪をましながら  
ふた、び私は通過する  
あれから八年  
ひたすらに不敵なこゝろを育て  
海よ

あなたのように  
あらぬ方を眺めながら…。

『根府川の海』 茨木のり子



監督 黒澤明

# 『天国と地獄』

東宝株式会社

自分の運転手の息子を誘拐された会社重役の権藤(三船敏郎)は、誘拐犯人の指示に従い、身代金の入った鞆を持って特急第二こだまに乗った。国府津駅に差し掛かるところで犯人から電話がかかる。酒匂川の鉄橋のたもとで子供を見せる。渡りきったところで車窓から鞆を投げろというのだ。一緒に乗り込んだ刑事たちは、犯人の姿を捉えようと運転席から懸命に8ミリを回す。

映画のクライマックスともいえるこのシーンで、新幹線開通前のこだまの車窓から昭和37年当時の酒匂川の様子をうかがうことができます。

(写真提供・東宝株式会社)



新幹線開通前のこだまの車窓から



左：黒澤明 右：三船 敏郎

村上 春樹

# 『ダンス・ダンス・ダンス』

講談社

ある日、ユキが何か映画を見たいと言った。僕は小田原まで下りて新聞を買って調べてみたが、たいした映画はやっていなかった。二番館で五反田君の出る『片想い』をやっているだけだった。

(中略)

僕は映画館に電話をかけて『片想い』の始まる時間を調べ、それまで城の中の動物園に行つて時間を潰した。お城の中に動物園のある町なんて小田原以外にはまずないだろう。

中河 与一

# 『超一流の人々』

日本総合出版

神奈川県小田原の一夜城跡に一年ほど前、僕は桜の苗木四十本を寄贈した。

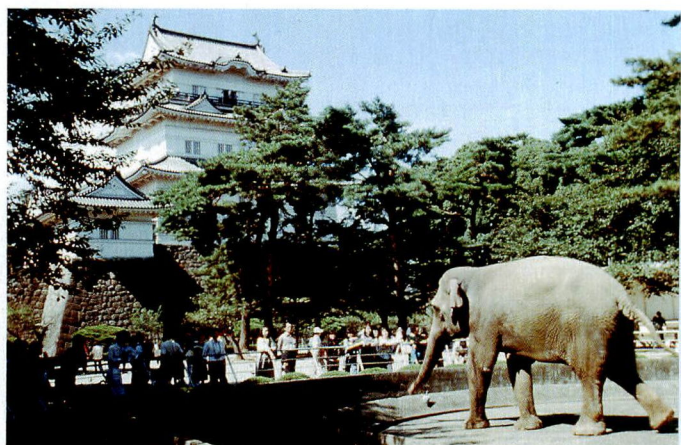
今度そこを石垣山歴史公園と名づけて、市が整備改造した結果、其処は驚くべき快適、豊富な地域に変貌した。そのために小田原市がそそいだ努力と年月は大変なものであったように思はれる。

それは岡山の後楽園も、金沢の兼六園も、水戸の偕楽園も所謂三大公園もその景観、規模に於て到底及ばぬこと数段、勿論邦家第一の公園と云ふべきものになった。

僕は前に二、三度そこに行つたが、四月二十九日、大茶会を市が催すといふので、行つてみて、その変貌のみごとに驚嘆せざるをえなかった。



石垣山(左)と大茶会



小田原城址公園・動物園

朝井 閑右衛門

『積みわらのある風景』

横須賀市蔵



積みわらのある風景 1928～32年ころ

朝井閑右衛門（明治34年～昭和58年）大阪に生まれ、画家を志し上京、大正15年『廃園に於て』が二科展初入選。昭和11年『丘の上』が文展文部大臣賞受賞。昭和3年から数年にわたり、小田原町新玉、谷津などに住み早川のアトリエで作画活動を行いました。小田原時代には、小説家牧野信一、川崎長太郎、詩人の福田正夫、彫刻家の牧雅雄らと交流しています。

「積みわらのある風景」は、昭和3～7年の早川の風景を描いたものと考えられています。

歌川 広重

浮世絵『曾我物語図会』

岩崎宗純氏蔵



曾我の里で亡き父を偲ぶ兄弟

曾我兄弟の仇討ちは、鎌倉時代の末ごろから、修験比丘尼によって読み継がれ語り継がれ上演されました。

曾我谷津の城前寺では、毎年5月28日に、この故事にちなんだ傘焼まつりが行われています。

童門 冬一

『小説 二宮金次郎』

学陽書房



二宮尊徳生家

金次郎が生まれたのは天明七年（一七八七）七月二十三日であった。陽暦にすると九月になる。

彼の生まれた栢山村は、酒匂川のほとりにあって、対岸は曾我村だった。北は吉田島村、酒田村、西は福沢村、岡本村に囲まれている。南は足柄村だが、そのまま箱根の裾野に続いていく。北方は丹沢の山塊に連なる。東はそのまま相模灘に連なっていく。なにもなければ山や川に囲まれた平穏な地域である。

作品に見る小田原



傘焼まつり

郷土の巨星もた た讃える

# 小田原の名物



## 梅干し

梅干しの起源は古く、遣隋使小野妹子が中国から持ち帰った漢方薬うばい梅が日本最初と言われている。小田原梅干しの祖は、北条早雲と言われている。梅干しの薬効と腐敗を防ぐ作用に目をつけ、戦の食用にと梅干しづくりを奨励したという。江戸時代には、小田原宿の土産として旅人に重宝された。特に、梅干しの里である曾我の極上品「十郎梅」は、皮は絹はだのようにきめ細かく、塩加減はうすく、口の中でとろけるようだと称賛され、天下一品である。

## ひもの

江戸時代、地場で揚がるアジ・カマスを開き干しにし、保存食として商いにしたのがそもそもの起こりと記される。品の良い味わいと丁寧な作りが小田原ひものの特徴。アジ・カマス・イボ鯛・金目鯛など、小田原の恵みと秘伝の塩加減によって大切につくられるひものは究極の逸品である。



## 塩辛

相州小田原宿より松並木の東海道を少し上がった、国府津から大磯にかけての海岸一帯にみごとな塩田があり、塩が豊富にあった。海からは新鮮なイカが大漁に上がり、水の良い小田原には酒蔵も多かったため、つくり酒屋に卸す糶がふんだんに手に入った。こうして江戸後期に登場する名物「イカの糶入り塩辛」が、東海道小田原の土産として街道を賑わせた。



われは、梅干しパワーで  
戦国時代を  
生き抜いたのじゃぞ！



# 北条早雲

室町後期の武将。小田原北条氏の祖。はじめ今川義忠を頼って駿河に滞し、義忠の死後内紛をおさめて興国寺城主となる。次いで伊豆韮山城に入り明応4年小田原城を奪い、これを拠点に関東の制覇にのりだした。その後、三代氏康の時代には城下町の形態も整い、小田原は関東における政治・経済・産業・文化の中心地として、五代氏直の時代に豊臣秀吉に敗れるまでの100年間、上方にも勝るといわれるほどの繁栄を築いた。

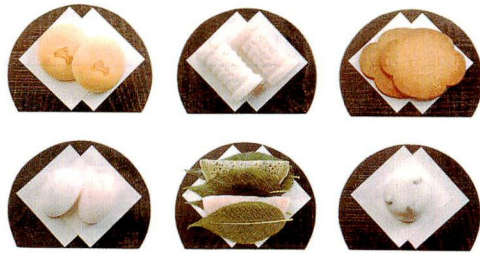




海の恵み、地の恵み、  
人の恵み、小田原は、  
本当に良いところですよ！

**蒲鉾**

小田原蒲鉾の起源は江戸後期、天明文化にさかのぼる。相模湾で獲れるオキギスを原料に、江戸日本橋から小田原に渡り住んだ職人によりその技術が研究され、関東式蒲鉾といわれる色・型・味の三拍子そろった品位と風格ある板蒲鉾が完成した。現在ではグチを主原料とする豊富な鮮魚と箱根水系の良質な水が、小田原産ならではの肌つや、きめの細かさ、弾力ある絶妙な歯ごたえを生んだ。これこそが、小田原蒲鉾の味わいである。



**和菓子**

城下町は茶の盛んなところでもある。四季折々のさまざまな茶会が開かれた小田原は、大久保城主時代に茶道が花開く。茶の湯を好んだ大久保城主は、城におさめる菓子を司る菓子舗の商人の位を高くしたことから、優れた菓子職人が小田原に多く集まってきたといわれる。

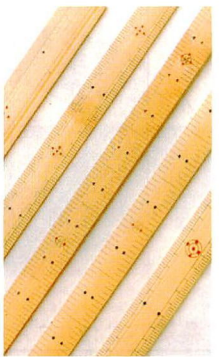
**地酒**



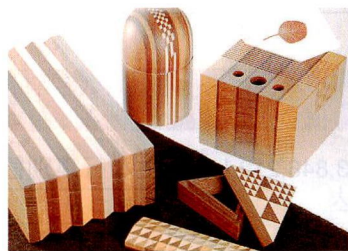
小田原には酔い心地の良い、うまい酒がある。知る人ぞ知る銘酒「智恵袋」だ。箱根水系を源流とする「灘にも負けない良質な水」は、口あたりがよくまろやかで、力ある芳醇な酒をつくる。磨かれた技術とおだやかな気候風土が育てた小田原の地酒を、地場の魚を刺身にあるいは板わさを肴に一献傾ける風情は、通にはたまらない。

**ものさし**

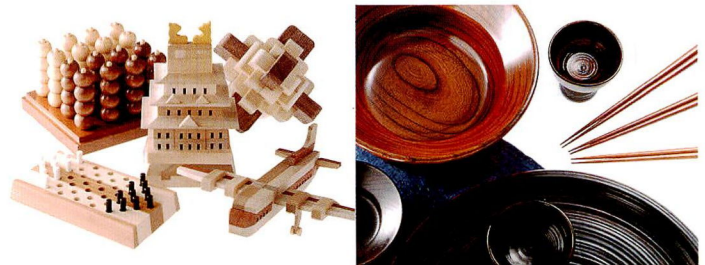
箱根外輪山に竹林が多くあった江戸の中ごろ、幕府の用を受け、小田原の里で竹のものさしづくりが始まったとされる。今でこそ竹製はあまり使われないが、かつては全国の80%の生産量を誇るほど小田原の竹のものさしづくりは盛んだった。



**木工**



市内早川に「木地挽」という地名がある。そこに芹椋を社宝とする紀伊神社があり、木地師の始祖といわれる惟喬親王が祭られている。平安の昔、京都のろくろ師集団が小田原に土着し、関東木地挽きが発生したことを神社は伝えている。そしてここ早川に木地業は起こり、小田原木工の歴史が始まったのである。



一宮尊徳

(金次郎)

江戸時代の農政家。相模国(小田原)の人。苦学の末、没落した一家を再興。文政5年(1822)下野国(栃木県)桜町領の荒地の復興に努め、その後も北関東中心に各地の農村復興や藩の財政建て直しを行う。自ら陰徳・積善・節儉を奉行し、弟子により報徳社を設立。生涯を通じて貫いた実践主義により、農業・経済・土木などの広い分野で指導力を発揮した。「小を積んで大を為す」の原理は現代の生活にも息づいている。

# データで見る小田原

## 3. 産業

商業(平成9年6月1日) \* 飲食店は平成4年10月1日

<卸売業>

|     |        |             |
|-----|--------|-------------|
| 商店数 | 従業員数   | 年間商品販売額     |
| 558 | 5,080人 | 2570億7000万円 |

<小売業>

|       |         |             |
|-------|---------|-------------|
| 商店数   | 従業員数    | 年間商品販売額     |
| 2,440 | 14,435人 | 2739億7500万円 |

<飲食店>

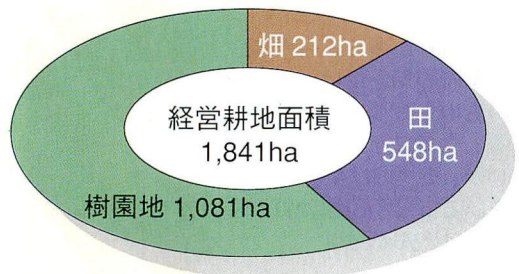
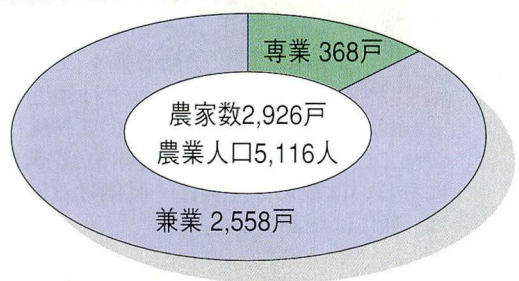
|     |        |            |
|-----|--------|------------|
| 商店数 | 従業員数   | 年間商品販売額    |
| 804 | 5,452人 | 309億4700万円 |

工業(平成10年12月31日 従業員4人以上)

|      |         |             |
|------|---------|-------------|
| 事業所数 | 従業員数    | 製造品出荷数      |
| 460  | 17,578人 | 8388億2700万円 |

出荷数第1位の産業 化学工業

農業(平成7年2月1日)



漁業(平成12年3月31日)

|                |              |
|----------------|--------------|
| 経営体数           | 小田原漁港の漁船水揚状況 |
| 55(平成10年11月1日) | 1,389t       |

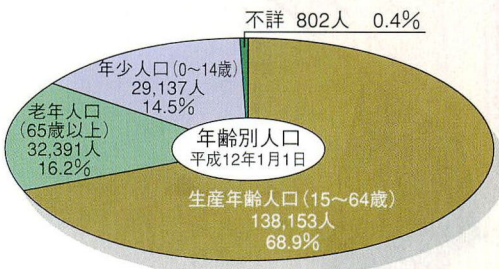
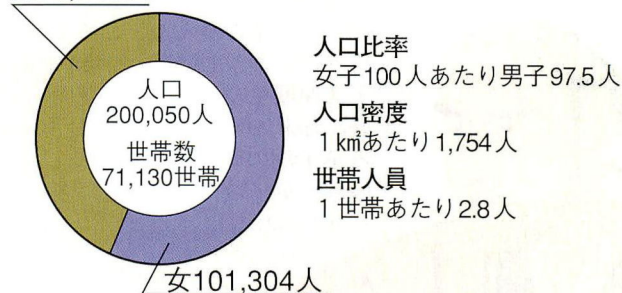
## 1. 面積・気象

|   |                           |                        |                             |
|---|---------------------------|------------------------|-----------------------------|
| 1<br>1<br>4<br>・<br>0<br>6<br>km <sup>2</sup> | 都市計画区域(平成12年1月1日現在)       |                        |                             |
|   | 市街化区域27.97km <sup>2</sup> |                        | 市街化調整区域86.09km <sup>2</sup> |
|   | 地目別土地面積                   |                        |                             |
|   | 宅地18.59km <sup>2</sup>    | 田畑26.43km <sup>2</sup> | 原野・池沼18.67km <sup>2</sup>   |
|   | 山林19.58km <sup>2</sup>    | 雑種地6.28km <sup>2</sup> | その他24.51km <sup>2</sup>     |

|                |           |           |
|----------------|-----------|-----------|
| 気象(平成11年度中)    |           |           |
| 平均気温15.9℃      | 最高気温36.2℃ | 最低気温-3.5℃ |
| 年間降雨量1,623.5mm |           |           |

## 2. 人口・世帯

平成12年4月1日現在  
男98,746人

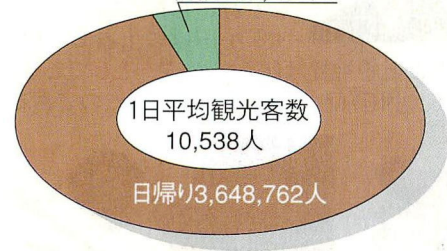


|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 昼夜間人口(平成7年国勢調査) |              |
| 昼間人口196,478人    | 夜間人口199,301人 |

## 4. 観光

年間観光客数(平成11年中) 3,846,212人

宿泊197,450人



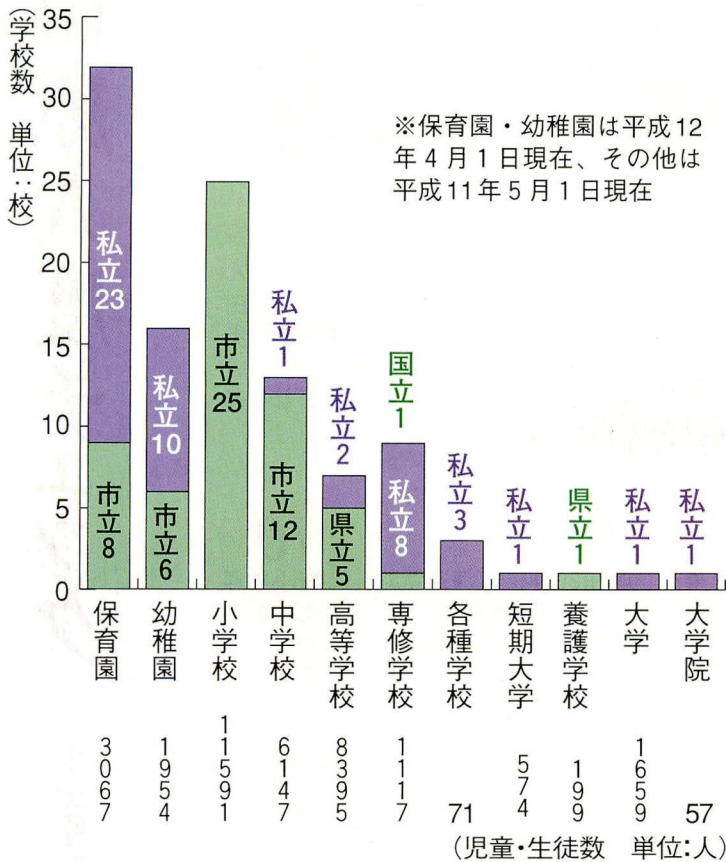
主な行事別観光客数

|             |                        |
|-------------|------------------------|
| 梅まつり        | 805,000人               |
| 北條五代祭り      | 170,000人               |
| 桜まつり        | 418,000人               |
| ちょうちん夏まつり   | 183,000人               |
| 菊花展         | 96,000人                |
| 酒匂川花火大会     | 120,000人               |
| 小田原城天守閣入場者数 | 327,188人<br>(1日平均896人) |



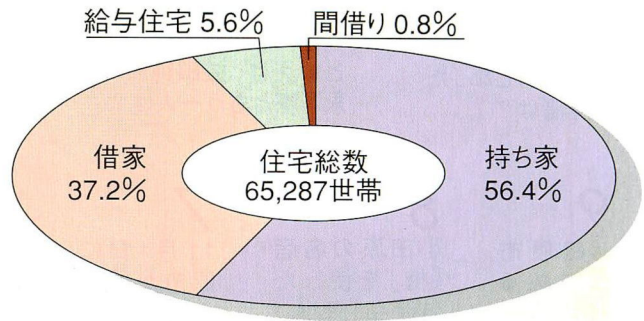
5月に行われる北條五代祭り

## 9. 子育て・教育



## 5. 住宅・公園

住宅 (平成7年国勢調査)



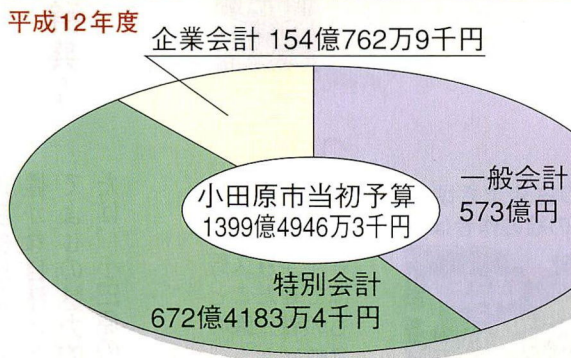
公園 (平成12年4月1日)

|            |         |
|------------|---------|
| 都市公園数      | 127か所   |
| 面積         | 64.11ha |
| 1人あたりの公園面積 | 3.2㎡    |

## 6. 環境

|                     |       |                 |          |
|---------------------|-------|-----------------|----------|
| 下水道普及率 (平成12年3月31日) | 66.6% | ごみ総処理量 (平成11年度) | 82,458 t |
|                     |       | (1人1日あたりごみ排出量)  | 1.12kg   |

## 10. 財政

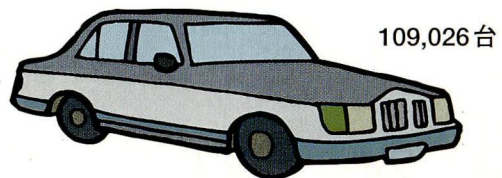


## 11. その他

|                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| 市制施行                  | 昭和15年12月20日                 |
| 市役所所在地                | 小田原市荻窪300番地                 |
| 市の木                   | くろまつ (昭和51年制定)              |
| 市の花                   | うめ (昭和51年制定)                |
| 市の鳥                   | コアジサシ (平成7年制定)              |
| 選挙有権者数 (選挙人名簿登録数)     | 総数 159,459人                 |
| 平成12年6月12日確定数         | (男 78,114人 女 81,345人)       |
| 市議会議員・職員数 (平成12年4月1日) |                             |
| 市議会議員数                | 32人 (定数32人)                 |
| 職員数                   | 2,167人                      |
| 姉妹都市                  | 栃木県今都市<br>チュラピスタ市 (アメリカ合衆国) |

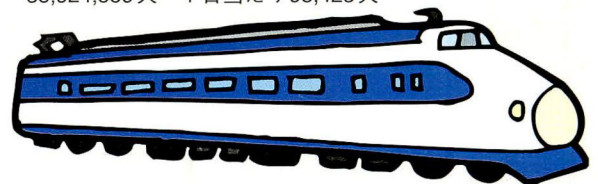
## 7. 交通

自動車保有台数 (平成11年3月31日)



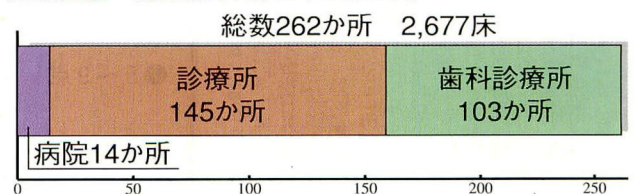
鉄道

小田原市内の鉄道 (18駅)  
東海道新幹線 東海道本線 小田急線 箱根登山線 大雄山線  
小田原駅乗車人員 (平成10年度)  
35,924,559人 1日当たり 98,423人



## 8. 医療

医療施設・病床数 (平成12年3月31日)





# ミレニアム・プロジェクトを語る

小田原市長 小澤 良明

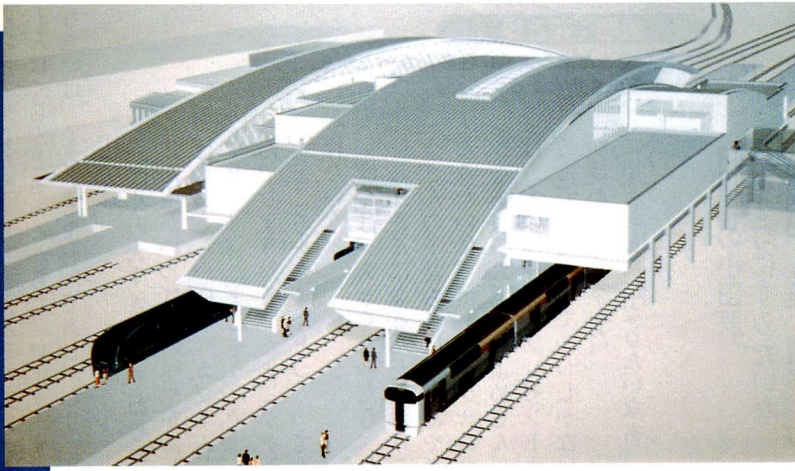
八年前、市長就任間も無くJR東日本の住田社長に面談を求めた。

『市長さん難事業になりますよ。本当にやる気ですか。分りました。具体的に進めましょう』

小田原駅東西自由連絡通路建設計画が動き出した瞬間である。昨日のことのように鮮やかに覚えている。コマ、私にとってのいわば、歴史的な第一歩である。

西暦二千年・ミレニアム、市制施行六十周年の今年、春以来小田原駅構内で三つの地鎮祭が月を追って順次執り行われた。自由通路建設着手に伴うJR東日本、小田急、JR東海、それぞれの工事安全祈願祭である。いくら世紀をまたぐ大事業といっても一連の工事で三回もの祈願祭というのは前代未聞であろう。自由通路計画のここに来るまでの長い険しい道のりを象徴するような出来事であった。苦労をともにしてきた関係者一同、特に最大の市政課題と位置づけて懸命に取り組んできた私自身、感無量のものであった。

小田原駅は鉄道五社が乗り入れ、世界の観光地箱根の表玄関と神奈川県西部の広域拠点駅としての機能を併せ持つターミナル駅でありながら、東西を結ぶ自由通路が無い。利用者はわざわざ百四十円の入場料を払って駅構内を行き来するという誠に不親切な駅として内外の批判的であった。鉄道にまちを分断されているという都市構造上の問題もあって、まちづくりの上からもこれが最大の懸案となっていた。



自由通路・駅舎外観(天守閣方向上空から)床から屋根までは、最大で約10メートルの高さがある。手前がJR東日本駅舎、奥が小田急駅舎。

しかし、公共交通機関とはいいいながらも民間営利企業である鉄道各社の利害対立や、近隣商業者等の不安や思惑、大型投資への市財政への影響、技術的な困難性、等さまざまに配慮しなければならぬことがあり過ぎて、行政としても積極的取組みとは言い難い状況で長い間日を

重ねてしまっていた。こうした閉塞状況の中での新市長としての私の決断と行動は、当面の交渉相手である鉄道側の真剣な対応を喚起する一石となったのである。

景気の長期低迷、中心市街地の空洞化、厳しい市財政と、大事業を進めるには余り良い環境ではなかったが、だからこそ事業推進の為に必要条件とは如何にあるべきか必死で考え動いた。まず市役所内部や市議会、市民社会の合意を得ることから始まって、広域圏を構成する近隣一市八町の首長や議長の同意、神奈川県の新総合計画にしっかりと位置づけされること、そして国や県の財政的支援を如何に得るかに至るまで、大袈裟でなく聞くも涙、語るも涙、紆余曲折の八年の忍耐と努力だった。

着手したばかりの今、苦労話を語っても詮ないことであるが、こうして多くの障害を乗り越え、ミレニアム・プロジェクトとも言ふべき壮大な自由通路建設が槌音高く起工されたのである。

単に市民が駅構内を自由に往来できる通路事業というだけでは、相模川以西の広域圏の拠点駅として、富士箱根伊豆交流圏の神奈川の西のゲートとして、もっと言えば首都圏の南の玄関として、国や県からもその意義を重く受け止められ、小田原駅周辺再整備構想のスターティング・プロジェクトとして巨額の補助金も得られた上で、ようやく陽の目を見ることになったのである。

それだけにこの事業が完成の暁には、利用者の利便は勿論のこと、中心市街地活性化の起爆剤、ひいては千年先まで本市発展の原動力となる、まさにミレニアム・プロジェクトと呼ぶにふさわしい大きな成果が期待される。本事業に市民皆様の積極的なご理解とご協力を請い願う所以である。

## 小田原 彩時記

### 力強く 特例市に移行

#### 晴れやかに記念式典



11月2日、中央公民館に約400人が集い、特例市移行記念式典を行いました。小澤市長が「地方政府の気概をもって、まちづくりを進めたい」と力強く意志表明すると、会場からは盛大な拍手が起きました。市民公募研究員の政策総合研究所平井太郎さんと地域づくり課石渡恵理子さんも、市民職員を代表して未来に向かっての決意表明を行いました。

### 全国特例市のリーダーに

11月10日、特例市に移行した全国10市の首長らが集い、全国特例市連絡協議会が小田原市役所で行われました。会長には小澤小田原市長が選出され、国に向けての事務権限の拡充や新たな税財源の確保・充実などを求める要望書を提出することを決めました。小田原市はこれでも名実ともに、地方分権のリーダーとなりました。



# ぼくは、こんなまちにすみたい。

## 誌上ミレニアム絵画・作文展

これらの作品は「ミレニアム記念 21世紀の小田原 小さなまちにすみたいな」絵画コンクールの優秀賞と、作文コンクールの市長賞です。なお、作文は掲載上、一部抜粋しています。

ぼくのだいすきなおだわら

早川小 1年 大橋 庸平

ぼくは、おだわらが大すきだよ。ポケモン

シャンプーをくれるおじさんのいる、おもしろいところやさんもあるし、えんそくでいったわんぱくランドもあるからね。ローラーすべりだいは、くるくるまわってあしがビリビリしたよ。

ぼくの大きいおだわらに、こん虫がいっぱいのへやがあれはなおさらいいな。カプトムシやセミは、たまごをうんで、しんでしまうから、たまごがそだつところをちゃんとつくってあげたいな。

ぼくは、大きくなったら、おいしやさんになるんだ。おりこうさんの子どもには、とこやさんみたいに、ポケモンシャンプーをあげるんだ。およめさんには、木のゆびわをプレゼントするんだ。せかいで一つしかないゆびわをつくるんだ。

早くおとなになりたいなあ。

城南中 1年 富田 理紗

表題：花と緑

花がいっぱいで木がたくさんあるまちに住みたかったから、花と木をたくさんかきました。

21世紀の小田原  
こんな町にすみたいな

富水小 2年 清水 千づる

「21世紀の小田原、どんな町にすみたいかな」とわたしは考えました。わたしは自分が生まれそだった小田原を、あまり知らないことに気がつきました。おじいちゃんに「小田原ってどん

なところ」と聞いてみました。

おじいちゃんは「小田原は、むかしからとてもさかえたじょう下町で、れきしがたくさんある町なんだよ。だから、りっぱなおしろがあるだろう」と。

おばあちゃんは「富水も30年前は、もつと自ぜんがゆたかだったんだよ。今はもういいけど、ぼたるがたくさんとんでいて、とてもしきれいだつたのよ」と。

らい年は、2001年です。21世紀に住みたい町は、海も山もつくしく、すばらしい自ぜんがたくさんあって、むかしのようにはぼたるがいっぱいとぶ、そんな町にわたしはすみたいと思います。

大すき・小田原・21世紀も

国府津小 3年 井上 舞

わたしのおじいちゃんは、足がちよつと悪くて「みんなでお出かけしよう」といつても「こんな体だから、歩くのがたいへんなんだよ」といって、なかなかいっしょにいけません。そんな時わたしは、とつてもさみしいです。歩道がもつと広かったり、でこぼこがないといいのかなと思います。そうしたら、おじいちゃんもお出かけしやすいと思います。

21世紀の小田原は、まちに木やお花や公園がたくさんあって歩道も広くてでこぼこがなくなつてほしいです。そして、大好きなおじいちゃんとおばあちゃんには、もつともつと長生きしてもらい、わたしといっしょに公園に行ったり、おさんぽしたいと思います。

21世紀の小田原 みんなの笑顔

富水小 4年 山本 美沙

「いってきます」

「いってらっしゃい。今日はカプセルで行くの？」

「うん。荷物、たくさんあるからそれにシルバール大学の人とおしゃべりしながら行くのもいいんだ」

「ふーん。そうそう、午後は？もうわんぱくらんどのログハウスは完成したの？」

「うん。今日はね、酒匂川でいかたを作るんだ」  
「そう、がんばってね。5時には帰ってくるのよ」

「はい」

ときどき、シルバール大学の人にしかられたり、ボランティアの先生にいろいろ相談することもありますが、毎日日本当におもしろい。小田原に住んでいてよかったとみんなが思っている。だれかが困っている時やなやんでいる時、みんながやさしくしてくれる。

ここは、21世紀の小田原です。私はこんな小田原の一員になりたいです。  
(注)カプセルは21世紀のため型のりもの。  
ソーラー電気自動車。

大勢の人とふれあう町に

芦子小 5年 遠藤 華

夏のとて暑い日、私は小田原の町で一人のおばあさんを見ました。そのうちに、おばあさんは、あるお店の横のコンクリートの石段にすわりました。その様子をずっと見つめながら、私はひいおばあちゃんのことを考えていました。

ここは雨の日でも便利です。急に夕立がふつてきた時に雨やどりができるし、お友だちと待ち合わせるにも便利です。

またここは、お年よりだけでなく、赤ちゃんをだいたお母さんも、おつとめ帰りのお父さんも、だれでも気がるに立ち寄れる場所であつてほしいと思います。



もっと広い広場があれば、私のひいおばあちゃんも楽しんでる歌やおどりのミニ発表会も開けます。私の好きな大道芸やお母さんが好きな音楽のコンサートなども観ることができたら最高です。そしてそこには、色とりどりの季節の花がたくさん咲いているのです。

小田原の駅は今よりっぱに生まれ変わろうとしています。交通の面だけでなく、人と人、人と自然、人と文化を結んで大きく前進していくことこそ大切だと思っています。

大好きな小田原の21世紀に願うこと

千代小 6年 斎藤 静香

私は生まれてから、この小田原の土地とあたたかい人情に包まれ暮らしてきました。しかし、12年の思い出が詰まっている「郷里の小田原」に21世紀の桜が咲くときに、私は別の町へ引っ越して行きます。大好きな小田原の人々とはなれるのは、つらいし悲しいです。だから最後に21世紀の小田原に対する私の願いを二つ聞いてください。

一つ目は、いろいろな分野を通して、他の地域の人々と交流する機会をもっと増やしてほしいと思います。

二つ目は、緑と花がいっぱいの、人に優しい小田原になってほしいと思います。

昔ながらの風景、伝統も大切に守り続けていきながら、今とはひと味違う、人々の心が和む小田原になったらいいなと私は思っています。

引っ越しても、21世紀の小田原に遊びにきます。「21世紀、小田原はどうなるのかなあ」今から私の胸はワクワクしています。

理想の小田原

国府津中 1年 高橋 明日香

小田原は、とてもすばらしい所だ。しかし、小田原は「心」の面で、少しかけている所があるのではないかな。



富水小 3年 塚本 彩芽

表題：夢いっぱいな小田原の町

宇宙人ももなかよく、未来のおもしろいものにのったり、いろいろな友だちと楽しそうにあそんだりしているところをかきました。

輝く小田原に

国府津中 2年 藤井 健太

豊かな緑、川や海に恵まれたふるさと小田原。住み慣れてしまおうと見過ごしがちなこの大きな宝を、見つめ直してみることが大切だと思ふ。

幼いころ、両親はよく小田原まで「歩いていける小さな旅」を見つけては、自然を楽しませてくれた。そこには、今まで気づかなかったことや新しい発見があった。自然を大切にする第一歩は、自然を知ることに始まると思う。近くの酒匂川沿いには、たくさんの植物や魚が生育し、水辺の自然が残っている。川べりで健康のためにウォーキングをしている人も多い。僕が初めて自転車に乗れたのも、自然の中のサイクリン

グ場だった。心の豊かさは、僕たちをとりまく環境の中から生まれてくるのかもしれない。

21世紀に小田原に新しい風、新しいいぶきを起こしていくことが僕たちの使命だ。町づくりの主役は、僕たち市民一人ひとりで。僕たちの未来の町をもっと住みよい、やさしい町にしていくために、二人の人間として何をしたらいいかを考え行動できる人間になりたい。そして、元気のある小田原の町が、いつまでも輝いているように見守っていききたい。

21世紀の小田原

白山中 3年 但馬 貴範

こどものころは、気にもとめなかつた自分の住んでいる町が、年をおうごとに少しずつ変わってきたのに



久野小 4年 勝保 美里

表題：21世紀の小田原はこんな町に

21世紀の小田原はモノレールと電気じどう車がおる町

気づいたのは、中学に入るところでした。僕が大きくなるのと同じで、小田原も大きく変わってきました。小田原アリーナや、生命の星地球博物館ができ、小田原駅から市役所に通じる道はきれいに整備されました。少しずつ、美しい都市に育っているのです。

小田原は、東京から新幹線で40分ほどの近郊都市です。恵まれた立地条件を生かして、さらに、未来都市として発展させるのが、僕たちの使命だと思ひます。

小田原城周辺には、野外コンサート場とレストランをつくり、日曜ごとに色々なジャンルの音楽を奏しめる広場にしたらどうでしょう。違った形の若者文化が生まれると思います。

いこいの森やキャンプ場も、もっと大きくして、ワンバクな小中学生から社会人まで楽しめるアスレチックを充実させたらどうでしょう。少々危なくても大歓迎です。忘れかけた冒険心を思い出すような東洋一の大アスレチックを作って「僕は元々野人だったんだ」なんて思ったら最高かもしれません。

# まちで見かけた 小田原の建築物

城下町、宿場町として栄え、明治期には政財界や文学者たちの別荘、保養の地として発展してきた小田原。

古い武家屋敷や農家、町屋のたたずまいは、明治以降の別荘とともにほどよく調和し、小田原独特の情景をかもし出しています。普段何げなく通り過ぎてしまう建物から、小田原文化の魅力を探ります。

建築士 平井泰延(栄町)



## 【山月「共寿亭」(板橋)】

現在の「山月」は所有者が代わっているが、元は明治・大正期の実業家(男爵)大倉喜八郎が、1920(大正9)年に建築した別荘で、当時は「共寿亭」と称していた。新築された2年後の関東大震災では、近くの山縣有朋公の別荘「古稀庵」は倒壊したが、この建物は残った。

この建物の外観は御殿風に見えるが、内部は瀟洒な造りになっている。設計は、当時の著名な建築家伊藤忠太と言われているが、はつきりとしていない。入口の重量感のある門柱・門扉を抜けると、一見不利な地形を利用した豪壮な庭園があり、鬱蒼とした樹木に囲まれ、石塔・石像・石碑があり、かつては滝や小川もあったという。

現「山月」の玄関は、北側に別に造られているが、建築当時の玄関は南側で、唐破風が付き、前には石像の狛犬2体が客を迎えるように置かれている。玄関ホールは、箱根細工様の桜と樺の寄せ木板張り。大広間の天井には、雀と蝶の彫り物の鏡板を交互に使っている。天井のシャンデリアも当時のままである。応接間の天井は網代と杉柁の市松模様と、いずれも大変手が込んでいる。

喜八郎が居間として使った1階の部屋は、書院造り風で上段の間が付き、ここで喜八郎は応接をし、また昼寝を楽しんだという。2階の居間は眺望が素晴らしく、板戸には、梅・水仙など草木の花の彫金細工と、岩絵具の絵が描かれている。貴重な板戸である。

夫人の部屋は数寄屋造り風でやさしい。付け書院に櫛形窓、杉の面皮柱、大面取りの長押など、女性らしい造りになっている。喜八郎の寝室には、暴漢に襲われるのを恐れて、外への逃げ口があったり、隠し人部屋の跡があったりする。

小田原市ゆかりの優れた建造物。



(註)大倉喜八郎(1837~1928)天保8年越後(新潟県)の生まれ。1865(慶応元年)東京神田に鉄砲店を開き、1873(明治6年)大倉商事を設立。貿易商を始める。西南・日清・日露戦争の度に、軍需物資の調達、輸送により巨利を得た。その財力により様々な事業を展開し、一代で大倉財閥を築いた。他方、大倉高等商業学校(現東京経済大学)の創立や、日本初の私設美術館「集古館」の設立など、学問・文化の面でも大きな足跡を残した。昭和3年死去、享年92歳。

## 【勝福寺・金堂と仁王門(飯泉)】



飯泉観音の「だるま市」は、12月17日の夜が大変な人出で賑わい、翌日も開かれる。

その飯泉山勝福寺には、県・市指定の重要文化財の建造物、本尊の十一面観世音像、青銅水鉢、銅鐘。さらに天然記念物の大銀杏など、見るべきものが数多くある。さらにその歴史を見ると、「弓削道鏡」「千代庵寺」「巡礼街道」のことなど、話題も多い由緒ある寺院でもある。

そのうち今回は、金堂(観音堂)と仁王門について述べることにする。

### 金堂(観音堂)

このお堂は、棟札によれば1706(宝永3)年に再建された建物で、江戸中期の典型的密教伽藍である。木造・廻縁向拝付き、宝形造り、銅板葺、青銅製宝珠を冠する。木鼻、葦股の彫刻が目をひく。左右に火灯笼。内陣は格天井で、中央部を折り上げて白龍が画かれている。

1968(昭和43)年、老朽化のため半解体修理。宝珠や屋根の反りといい、均整のとれた外観が美しい建物である。神奈川県指定重要文化財(建造物)仁王門

宝永年間(1704~1711)の建築で、八脚門、切妻造り、銅板葺き。両脇に木造金剛力士立像を安置して、伽藍の守護をしている。

葦股、木鼻および虹梁の絵様彫刻や破風の曲線は、江戸中期の手法で、建物の容姿が優れている。1964(昭和39)年修理。

左右にある、阿形、吽形の金剛力士立像は製作年、作者も不明だが、力強く、仁王門と均整がとれている。

小田原市指定重要文化財(建造物)。

